



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

第3回 国連防災世界会議

日程：平成27年3月14日[土]～18日[水] 主催：国際連合 会場：仙台国際センター（会議棟・展示棟）

国連防災世界会議は、世界各国の代表が国際的な防災戦略を議論する国連主催の会議です。

世界の防災戦略を議論する本体会議には、国連に加盟する世界193カ国から、

各国首脳・閣僚を含む政府代表団、国際機関、認定NGOなど5,000人以上が仙台に集まります。

第3回 国連防災世界会議 仙台開催実行委員会のウェブページ URL:<http://www.bosai-sendai.jp/>

パブリック・フォーラム

パブリック・フォーラムは、国連防災世界会議の開催意義である災害に強い国やコミュニティづくりに寄与するため、広く防災に関する関心を高めることを目的に実施するものとします。

あわせて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の被災地である仙台・東北を会場とすることから、

震災から得られた教訓や復旧・復興に向けた取り組みを共有するとともに

日本をはじめ世界の防災に関する最新の知見を集約し、世界の防災文化の発展に寄与することを目的とします。

パブリック・フォーラムは、政治機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、地域団体など、

国内外の多様な主体による防災や減災、復興に関する取り組みを一般公開により広く発信するものです。

国連防災世界会議期間中、仙台市内の会場で様々なシンポジウムやセミナー、展示等が行われます。



国際救助隊
NIHON UNIVERSITY N. RESCUE

N.Rescueは第3回国連防災世界会議を支援しています。
N.Rescue supports the Third UN World Conference on Disaster Risk.

国際救助隊の活動

—大学の「知」で社会に貢献できること—

日 時：平成27年 3月18日[水] 9:00～16:00

場 所：TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール2 仙台市青葉区国分町3-6-1

問合せ先：日本大学芸術学部 研究事務課 03-5995-8208

Forum 0 9:30～10:00 「国際救助隊の活動 —大学の『知』で社会に貢献できること—」
木村 政司 芸術学部・教授(研究代表者)

Forum 1 10:05～10:55 「宇宙技術開発から産まれた災害時緊急通信基地局と無人搬送システム」
青木 義男 理工学部・教授

Forum 2 11:00～11:50 「復興のさきの発展を目指した防災まちづくりと水上空港ネットワーク構想」
伊澤 岬 理工学部・名誉教授 轟 朝幸 理工学部・教授

Forum 3 13:00～13:50 「防災と災害用段ボールトイレのデザイン」
内田 康之 生産工学部・准教授

Forum 4 13:55～14:45 「キューバ防災研究と貧困地域」
山下 哲平 生物資源科学部・助教 喜多村 旬(学生)

Forum 5 14:50～15:40 「動物園と防災」
村田 浩一 生物資源科学部・教授

パネル展示 「国際救助隊の活動報告から」「津波シェルター・地震シェルター『ヒカリ』」「災害時の空港運用のあり方」

●日本大学学長特別研究編『国際救助隊誕生』—N.Rescue 国際救助隊誕生物語—が3月にリバネス出版から発刊されます。



The university's missions are research and education. However, I believe they will shift to sharing its findings with society, and to cultivating human resources that would play vital roles in the global community. We refer to the human resources that could contribute to society on the world stage as the members of "N. Rescue". Rather than being a rescue team that provides on-site assistance in times of disasters, they implement over 80 aid programmes by developing a "Smart Mobility System", which is capable of running pilot programmes on education and research activities, which may contribute to assisting disaster recovery, education and medical welfare. We introduce the contents of this rescue team. By going to a region by request to hold mobile classes and events, combining several workshops and education support, to work on the issues of the region with the students, the "creativity" necessary for problem-solving is cultivated. We discuss and investigate the possibility that I can contribute to disaster prevention with a guest.

8つのアート 1つのハート

N.U
Nihon University College of Art
Art

日本大学藝術学部